

Principal Correspondence

リリーベールのもうひとつの秘密

平成も4月いっぱいめで終わり、5月から新しい年号になります。リリー文化学園は70周年、小学校は15周年を迎えました。今年の6年生が平成最後の卒業生となります。

思えばリリーベールは平成16年、平成のちょうど真ん中に産声を上げ、平成後半の時代とともに歩んできたわけです。平成16年はアテネオリンピックで日本人選手が大活躍。メダル37個を獲得。イチローが年間262安打の記録を残し、新一万円札は福沢諭吉・五千円札が樋口一葉・千円札が野口英世になった年です。

経済の状況は「戦後の失われた30年？」と言われる停滞のど真ん中でした。

そのような中『幼小一貫教育』を掲げ、新たな教育を打ち立てるのは狂気の沙汰と言われる船出でした。

しかし全国に例を見ない、幼少期の発達段階を踏まえた『幼小連携教育』は、いつしか社会の評価を受けるようになり、この度、内閣総理大臣より天皇陛下御在位三十年記念式典のご招待のご案内をいただきました。

この大きな節目にあたり今回は、「初めて明かすリリーベールのもうひとつの秘密」をお話ししましょう。



15年前、私は「環境は人に知らず知らずに重要な影響をもたらす」という信念をもってこの学校を創りました

まず静かな環境の確保です。米国で、騒音がひどい鉄道沿線の教室で学ぶ生徒たちは、静かな環境で学ぶ生徒より最終的にまる一年分学力に遅れを取っていた実例がありました（防音装置をつけたところ学力の差は無くなったと言います）。音ばかりで無く色彩も環境全般で追求しました。

この点は、リリー文化学園が英国との30年にわたる姉妹校の交流経験や、私が

テーマパークの研究を趣味にしていたことも役立ちました。例えば、

①「美しい環境は人のたたずまいに良い影響を与える」を基本に据え、見せるものは美しく見せ、テーマにそぐわないものは徹底して見せない工夫。

②環境を英国調にする工夫（世界の人が一番くつろぐインテリアは18世紀の英国調であると言われてます。ホワイトハウスやリッツカールトンホテルは今も全世界に愛されています）。

③校舎や教室の色彩の工夫（赤い壁は注意力を高め、青系はクリエイティブな思考を養います）。

当校は、カラフルな色彩を入口の特別教室等に施し、ホーム教室は落ち着いた色彩にしています。

④天井を高くする工夫（部屋がアイデアを膨らませやすい）。

⑤一回で見渡せない建物の配置や、立体感のある配置の工夫（想像力を刺激し奥行きと夢を感じさせること）。

⑥校舎にいろいろの伝説やストーリーを持たせる工夫（グレートホールの馬ノーベンバーや鎧の騎士ケント君の話。リリーちゃんが見守るストリート。毎年10月31日だけストリートウィンドウに出てくるハロウィーンの写真？ランディやサンディなどの動物の話。最近図書館に魔女もいるらしい？）。

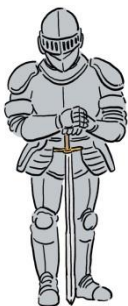
⑦よい音だけを聞かせるために校庭やストリート、ヴィクトリアホールなどの音響・音圧の工夫。

⑧緑豊かな植栽・木立の工夫（さらに水辺が演出できれば良いのですが…）。

⑨夜のリリーベールの光の演出（チェルシーレーンのウィンドウとヴィクトリアコートをぜひご覧ください。ストリートには英国から輸入した美しい街灯の光…クリスマスのときに見られます）。

⑩ワクワクドキドキ感動のイベントの数々…（全部お見せできないのが残念です）。

これらが、少年少女時代のいつかどこかで見た原風景となり、世界に羽ばたいたときに違和感なく溶け込める工夫です。リリーベールは新天皇のご即位とともに、晴れて16年目を迎えます。



Principal Correspondence

新しい御世になります

平成31年も4月で終わりを告げ、5月からは新しい天皇陛下のもと新しい元号に代わります。平成25年に「育脳学童」として新たにスタートしたりりの学童保育は卒園児・児童を中心に5箇所ですべて250名の児童を擁しています。4月からはヤマネ&リリースクエアで6箇所目を開校します。しかし私たちが大事にするのは「量より質」……。一定の人数以上はとらず担任は正職員で、教諭や保育士、学童指導員は免許を持ちカリキュラムを立てて運営するのはそのためです。

一般的に学童保育はただ「預ければよい。」「便利ならよい。」ということが求められてきました。平成の始めごろには学童保育は「鍵っ子」対策の保育園の補助的なサービスでした。しかし今では重要な保育施設・教育施設としてメジャーな存在となりつつあります。人間性の基礎がこの時期に形成されるからです。多くの子がわざわざリリーを選んで、通っているのは、卒園した園の先生方に見守られ、リリーの小学校においては先生方が直ぐ近くにいてアットホームに気にかけてくれる環境がまず安心なこと。さらに教育機関として智・徳・体(それを司る脳の発達を踏まえ)を伸ばしていく事を目的に運営している事などが理由にあるのではないかと受けとめています。

一般的に学童の中身は施設によってピンキリであるのも事実です。「ボランティア運営の預かるだけの学童」から「塾が経営する学童」、「プログラミング教育をやる学童」、「英語での学童???'」まで現れました。

私たちリリーの育脳学童の特徴は、仲間(コミュニケーション能力)とともに、脳に刺激と感動をもたらす様々なカリキュラムを組んでいる事です。そのために実体験活動を豊富に取り入れています。

子どものころの感動・・・「わくわく・じわーっ・どきどき・やったー・不思議だなー」と言うような感動は、子どもたちの自己肯定感とやる気を高め、集中力と好奇心を育みます。ちょうどこの学童期が旬で、この時期にほとんど育ちます。10歳までは何でも素直に感動し受け入れる時期でもあります。

しかし、人生は「うれしく・楽しい」ことばかりはありません。大人はできるだけ子どもたちの不合理な環境を排除していかねばなりません。それでも「悲しい・辛い・さびしい」など辛い場面に遭遇することがあります。落ち込むこともあるでしょう。しかし、小さな挫折の体験は、他人の気持ちを知るきっかけとなり、それを乗り越える経験は、思いやりのある子、人望のある子へと成長させてくれることも多いのです。リリーの学童ではそうした成長もこまめにみていきます。



新しい元号、国体やラグビーワールドカップもある2019年! いろいろな体験活動が待っている育能学童ですが、どんな体験もすべて前向きに捉えて、子どもの成長に役立つものにできる様がんばって参ります。

